

NECキャリアネットワーク事業戦略

世界トップ競える4領域に重点

トップで競える領域に重点を絞って戦う——。NECがキャリアネットワーク事業の成長戦略を発表した。ワイヤレスブロードバンドなど先行実績と技術力を活かせる4領域に特化し、グローバルに飛躍を狙う。 文◎坪田弘樹(本誌)

キャリアネットワーク事業はNECのグローバル戦略における牽引役にならなければならない——。

キャリアネットワークビジネスユニット(BU)・取締役執行役員専務の安井潤司氏は力強く語る。

NECは7月、中期経営計画「v2012」

(2010年2月発表)の実現に向けて、中核事業の1つであるキャリアネットワーク事業の成長戦略を発表した。09年度の売上高は前年度比約20%の大幅減となる6274億円だった。2010年度にはこれを6700億円へ回復し、さらに2012年度には売上高

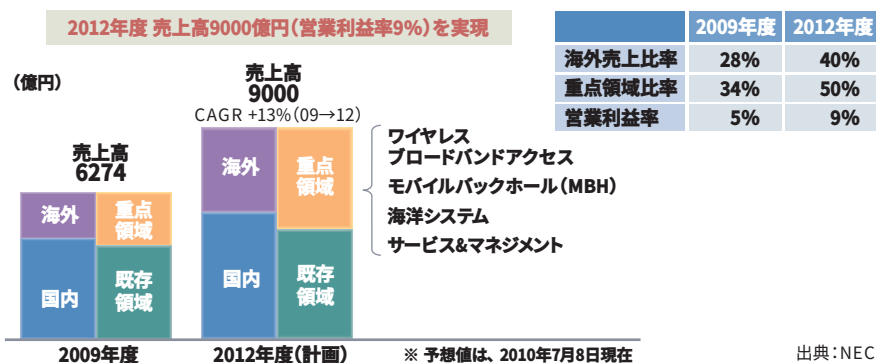
9000億円、営業利益率9%を目指すとの高い目標を掲げた。

07年度以降、NECのキャリアネットワーク事業の売上高は減少が続いている。今回の「V字回復戦略」のポイントは「グローバル」だ。

NECは中計「v2012」および長期経営計画「NECグループビジョン2017」において、海外比率の向上を基本路線に敷いている。同社全体の売上における海外比率は09年度時点で19%。これを12年度に25%、17年度には約50%に高める計画だ。

安井氏の言は、キャリアネットワーク事業がグローバル展開において先行する実績を踏まえてのものだ。09年度実績で28%の海外比率を12年度には40%まで引き上げ、海外キャリア向けビジネスを国内事業に比肩するレベルに育てる意向だ。

図表1 キャリアネットワーク事業の2012年度目標



図表2 重点事業領域

グローバル市場で魅力が高く、NECの強みを発揮できる事業領域に集中		
重点事業領域	市場の魅力度	NECの強み
1 ワイヤレスブロードバンドアクセス	- 市場規模大 - 市場成長性大	- 国内でのLTE先行実績 - フェムトセル・WiMAX領域での先行実績 - IT/NW統合ソリューション提供力
2 モバイルバックホール(MBH)	- 新興国の携帯加入者増 - LTE化に伴うパケット化・広帯域化で需要増	- パソリンク 3年連続トップシェア - RF技術 - TDM/パケット・ハイブリッドネットワーク技術
3 海洋システム	国際トラフィック増に伴う敷設需要継続	- 世界3強のポジション - 事業バリューチェーン - 先端光技術(40Gbpsデジタルコヒーレント)
4 サービス&マネジメント	- OPEX低減需要増 - 付加価値サービス需要増	- NetCracker 世界シェア4位 - サービスプラットフォームの国内先行実績

出典: NEC

トラフィック急増を追いつきに

とはいえ、キャリア向け事業をめぐるベンダー間競争は年々熾烈さを増している。これを勝ち抜く戦略について述べる前に、まずは市場環境と2010年度の事業概況について整理しておこう。

「特に海外が厳しかった」と認める通り、09年度は世界経済の低迷に伴って市場規模が10%超縮小した。さらに、投資抑制や価格下落等による海外移動系キャリア向け売上減、海洋大型プロジェクトの契約遅れ、